

第3回豊浦町住生活基本計画広聴会議事録

開催日時 令和2年10月30日(金)18時～19時45分

開催場所 豊浦町役場大会議室

出席者 別添委員会名簿のとおり

開催内容 次のとおり

1 開会

佐藤地方創生推進室長補佐より挨拶

2 議事

町民及び議会、第2回広聴会での各委員からの意見(資料1)を取りまとめし、事務局が基本的な方向性(資料2)を作成した。「暮らし」、「住まい」、「まち・地域」に分類(資料3)した各意見に対し各委員から意見を聴取した。

<各委員の意見>

春日谷委員

住んでいる人たちにとっては、公営住宅とか町有住宅とかの意識はあまりないのが実情。公営住宅は空室も多く、今後の人口減少に合わせて戸数を減らしていくべきではないかと思う。また、公営住宅に住んでいるのは高齢者が多いことを考えると、いたずらに増やす必要はないと考える。

木村委員

豊浦町に住みたい人たちは、どのような住宅を望んでいるのか。

豊浦町役場

これまで聞いてきた中では、畑や庭のある一戸建てを希望する方が多い。

木村委員

町としてどのような人たちに住んで欲しいのか考えてみる必要があるのではないかと。

谷本座長

子育て世帯は一つの柱と言える。

木村委員

定住促進住宅を町が建てるのは負担が大きいと思う。これからは、空き家の活用と民間活力の

導入が大切ではないか。豊浦町は不動産業が無いので、移住者が持ち家を取得するにはハードルが高い。これを下げるためにも、現在190件ある空き家の半分でも活用して、マッチングできると良いと思う。

豊浦町役場

現在、町が行う空き家対策は空き家バンクのみである。どちらかといえば待ちの取組であるので、踏み込んでいく必要があると考えている。行政ではやれることに限界がある。

松原委員

空き家になってから5年くらいの物件をリフォームして住みたいという人がおり、空き家活用において良い宣伝になるのではないかと思う。また、山方面で農業をやりたいという人や農業を手伝いたいという人たちもおり、住宅が必要になるが、住める家がないため、そうすると公営住宅ということになってしまう。

春日谷委員

空き家バンクはもっと積極的に進めていかないと駄目だと思う。音楽をやりたいという人が一軒家で自由に演奏や練習したいというケースがあり、空き家を探している人と持ち主のマッチングをする必要があると感じる。また、住宅が空き家になってすぐに解体されると勿体ないと感じることがある。貸し農園なども絡めて、借りたい人が借りられる仕組みをつくる必要がある。そうしていないと、空き家は増えるが住む人は来ないという状況がいつまでたっても改善されない。そういう状況をフォローできる体制づくりが必要と感じている。

松原委員

空き家バンクに登録するのに何か縛りはあるのか。

豊浦町役場

特にない。行政が買い手と売り手のマッチングを行っており、これまでに30件くらい成立している。今後は住宅だけを紹介するのではなく、住宅の周囲の環境も含め紹介していく必要があるのではないかと感じている。

松原委員

空き家バンクの登録前に解体するケースがある。

事務局

今回の空き家実態調査の結果、空き家に再入居して空き家ではなくなった住宅と解体された空き家の比率は6対4くらいとなっている。空き家になる前、空き家予備軍の登録制度のような

ものがあると、空き家をもう少し拾えるのではないかと思う。住宅の相談等に対応するNPOも西胆振にはできたので、このような団体と連携していくことも手立てだと思う。

春日谷委員

何か早めに手を打たないと駄目だと思う。もっといろいろ発信する必要がある。

山下委員

親の荷物が残っている住宅もあり、売るとか貸すとか踏ん切りのつかない人に、町から何らかの支援や補填をしてもらって、家を手放すきっかけをつくってはどうか。

谷本座長

住宅情報が総合的に集まる場がないというのも要因。

山下委員

住宅リフォームも経費の何分の1を補填する制度があると良いが、既存のリフォーム補助金は額が小さすぎる。また、町内事業者に空き家をリフォームする際の案をつくって見積もってもらいのも町の宣伝になると思う。

豊浦町役場

空き家提供のための誘発策として有効と思う。

木村委員

空き家等のリフォームは過度に行う必要はなく、お金をかける箇所とあまりお金をかけない箇所を考える必要があると思う。

小野委員

テレビに出る有名な建築家に頼むことは町の宣伝になると思うが、その大前提として豊浦町に来てほしい人を考える必要があると思う。

山下委員

公営住宅等長寿命化計画は長持ちさせる計画なのか。公営住宅をつくる時、高層ではなく、町内の事業者が建設できるようにするのも大切だと感じる。

豊浦町役場

公営住宅等長寿命化等計画は、長持ちさせる計画でもあるが、一方で必要のなくなった公営住宅の用途廃止をしたり、不足する際には建てる計画でもある。

山下委員

公営住宅を高層で建築した際は、長く維持していかなくてはならない。平屋であれば30年40年だと思うが。

豊浦町役場

大量に建設していた時代は高層で建てていたが、今は平屋などで建てている。

春日谷委員

公営住宅は高齢者を考えると階段のない平屋や長屋が良いと思う。また、子育てする若い人も平屋の方が暮らしやすく定住につながると思う。道東では、戸建ての公営住宅を既に建てている。古い地図を見て、災害が起こらない安全な場所を選んで立てれば良いと思う。

豊浦町役場

住宅性能の向上については、二つの意味があると思う。一つは建設するときの性能で、良いものをつくって長持ちさせる考え。もう一つは古い住宅をリフォームして、少しでも長く使いたいという考え。リフォームも住む人にとって、どこにどのようにお金をかけたら良いのかななどを真剣に考える時期に来ていると思っている。

山下委員

高齢者が暮らす住宅と、若い人が暮らす住宅を混在させることで一つの場所に多世代が暮らす配置となり、コミュニティの形成につながると思う。

木村委員、小野委員

住生活に係る取組を子育て世代に集中してはどうか。高齢者をないがしろにするということではなく、高齢者だけが暮らす地域になってしまうと高齢者同士が支えあう社会になってしまう。高齢者が暮らしやすい地域にするためにも若い世代が増えていかないと駄目だと思う。

春日谷委員

基本的には子育て世代がいないと、地域が崩壊してしまうと思う。なるべく若い人に住んでもらって、子どもたちの声が聞こえる町というのが良いと思う。

山下委員

無理に高齢者を新しい住宅に移転させると、長く住んだ家を片付けなくてはならず、新しい地域に馴染まなくてはならなくなるので、高齢者の住宅は安全に暮らせるくらいの改修をして、若い世代の住宅はしっかりと改修し、きれいな住宅に住まわせてあげるのが良いような気がする。そ

の世代、その世代に合った改修が大事だと思う。

松原委員

子育て世代に住んでもらう取組をすべきではないか。最近、高齢者は子どもたちに声をかけたり、子どもたちの声を聞くことで元気をもらえていると感じている。

3 連絡

今後の予定について事務局より説明

4 閉会及び挨拶

佐藤地方創生推進室長補佐より挨拶